

AI for Scienceによる科学研究革新プログラム  
AI for Science萌芽的挑戦研究創出事業 (SPReAD)  
第 1 回公募の応募状況について

2026年 6月29日

# SPReAD 第1回公募結果の概要

- ◆ 応募課題数：15,868 課題（うち、学生：2,624 課題）
- ◆ 応募機関数：787 機関（大学、研究機関、高専、民間企業、非営利団体等）
- ◆ 採択課題数：456 課題（うち、学生：61 課題） → **全体の採択率：2.9%**
- ◆ 採択機関数：164 機関（大学、研究機関、高専等）

## 公募概要



スケジュール  
公募期間

第1回: 令和8年4月17日(金)~5月18日(月)正午

研究期間

第1回: 交付決定日から令和9年1月6日(水)まで



応募資格

所属機関に研究者等として認められ、e-Radに必要情報が登録されていること



補助上限

1課題あたり500万円以下 (直接経費として)

※上記の研究費 (直接経費) に加え、原則として直接経費の30%に相当する間接経費を機関等に配分します



対象経費 (例)

計算資源に係る経費、データ取得・利用料、API利用料、ロボットアーム等の設備費、データ整理・確認作業に係る謝金 等  
※人件費は対象となりません。詳細は、公募要領をご参照ください

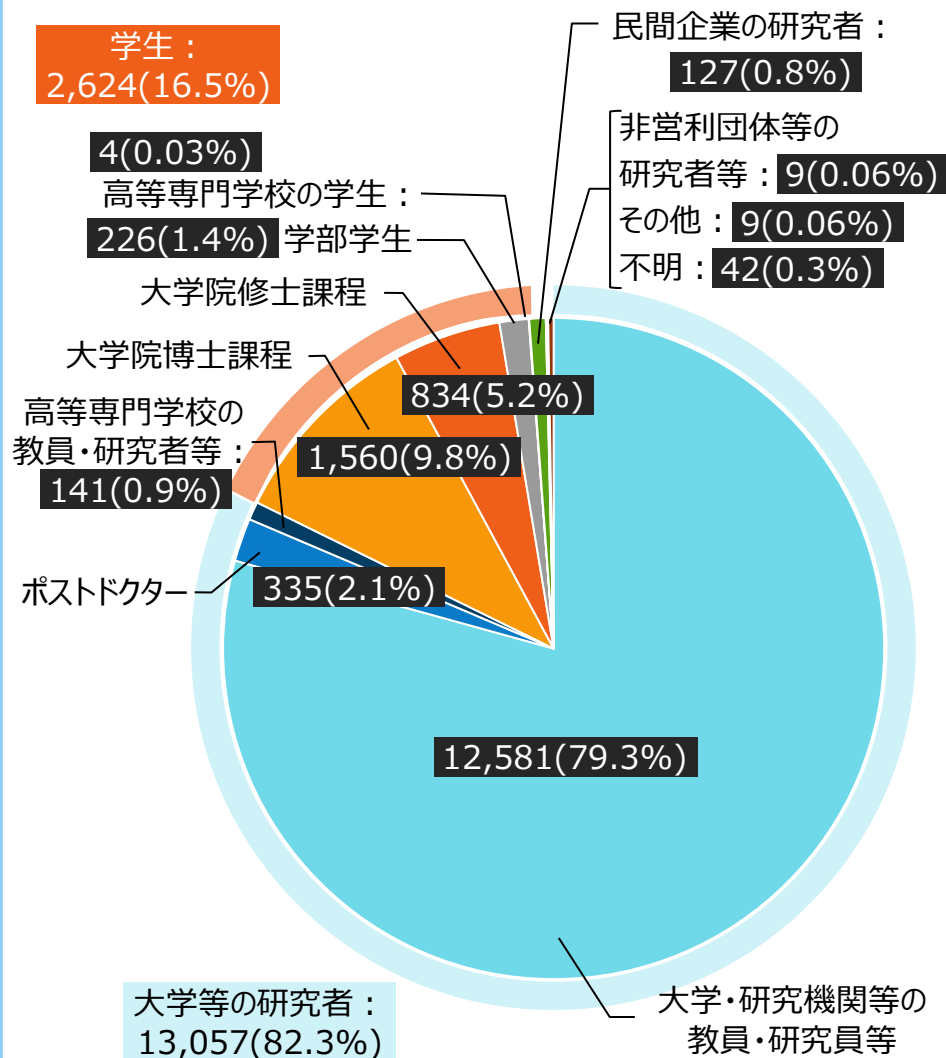


公募の対象

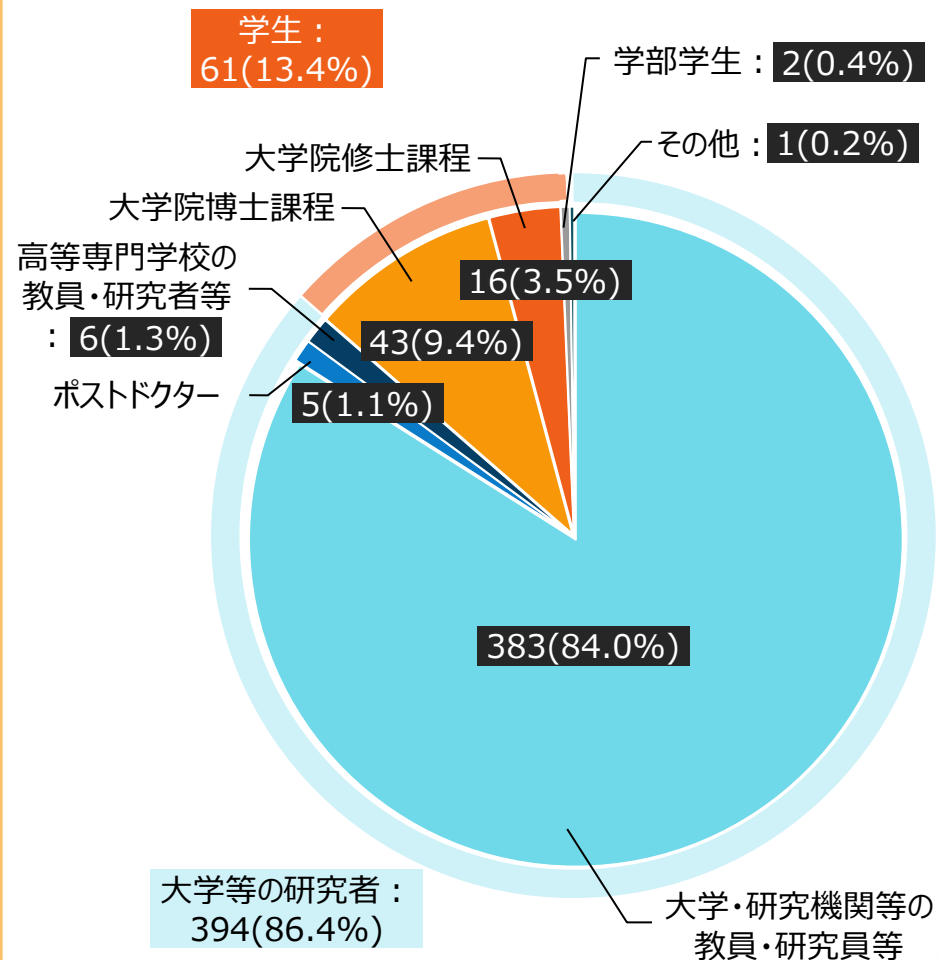
人文学、社会科学から自然科学までのあらゆる分野の研究者等を対象として、本事業の趣旨に合致する研究課題のうち、**研究代表者個人**で行う研究計画

# SPReAD 第1回公募 採択結果 【研究者等の属性別】

**応募課題数：15,868件**



**採択課題数：456件**

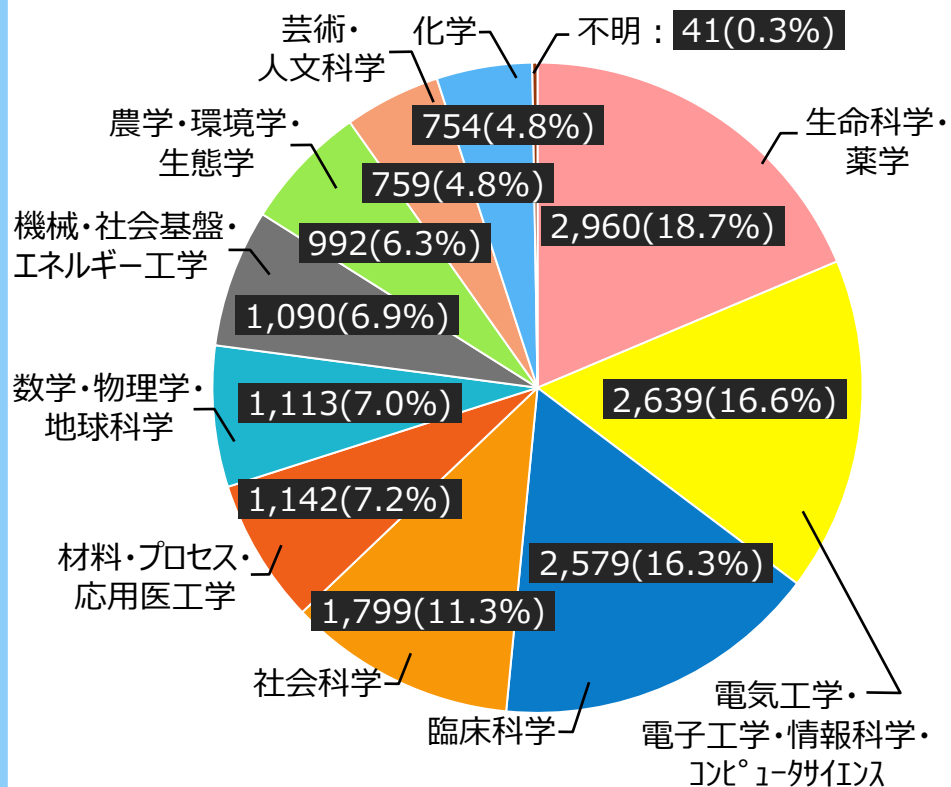


※ 応募者の自己申告に基づく集計

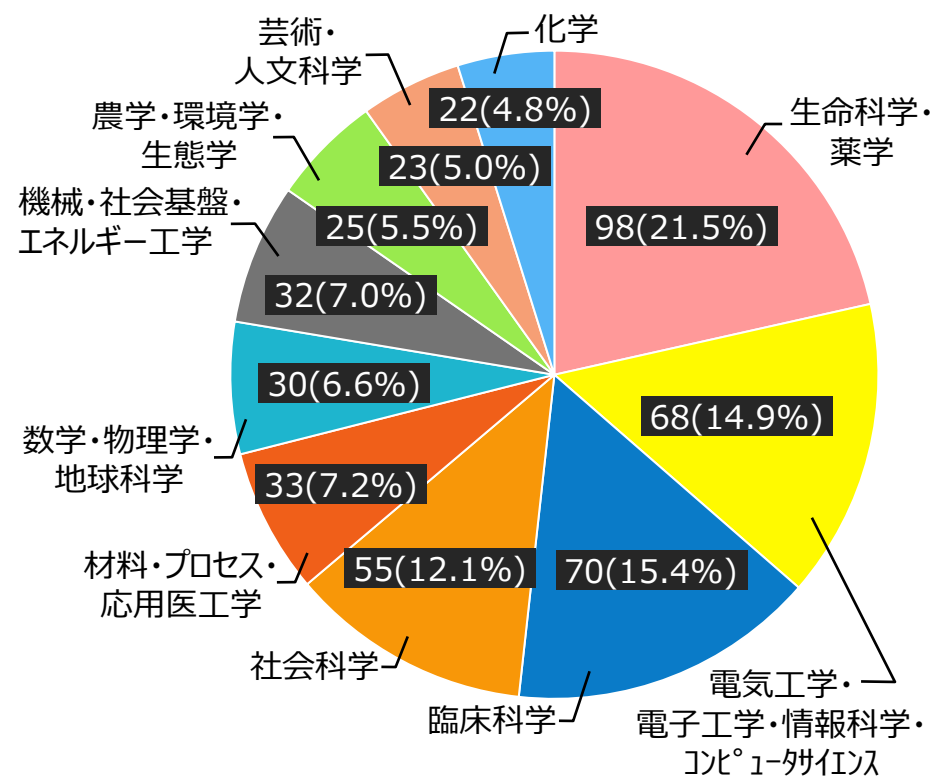
※ 高等専門学校の学生、民間企業の研究者、非営利団体等の研究者等は採択無し

# SPReAD 第1回公募 採択結果 【研究領域別】

**応募課題数：15,868件**

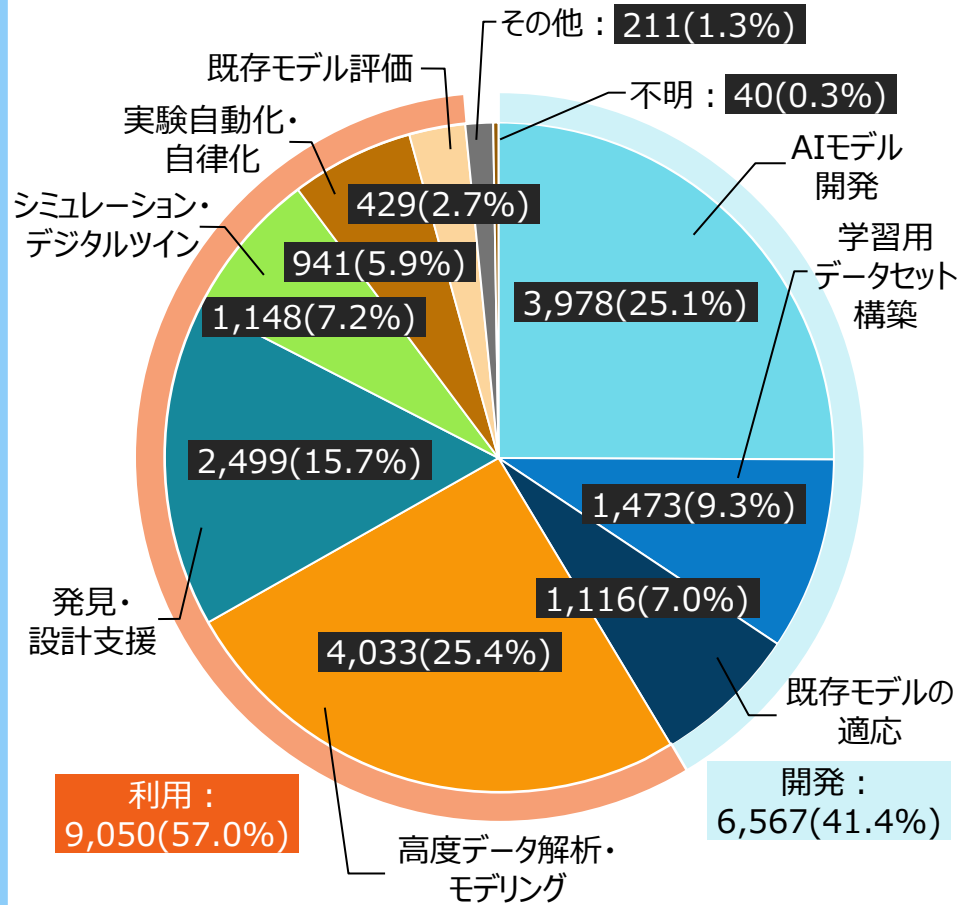


**採択課題数：456件**

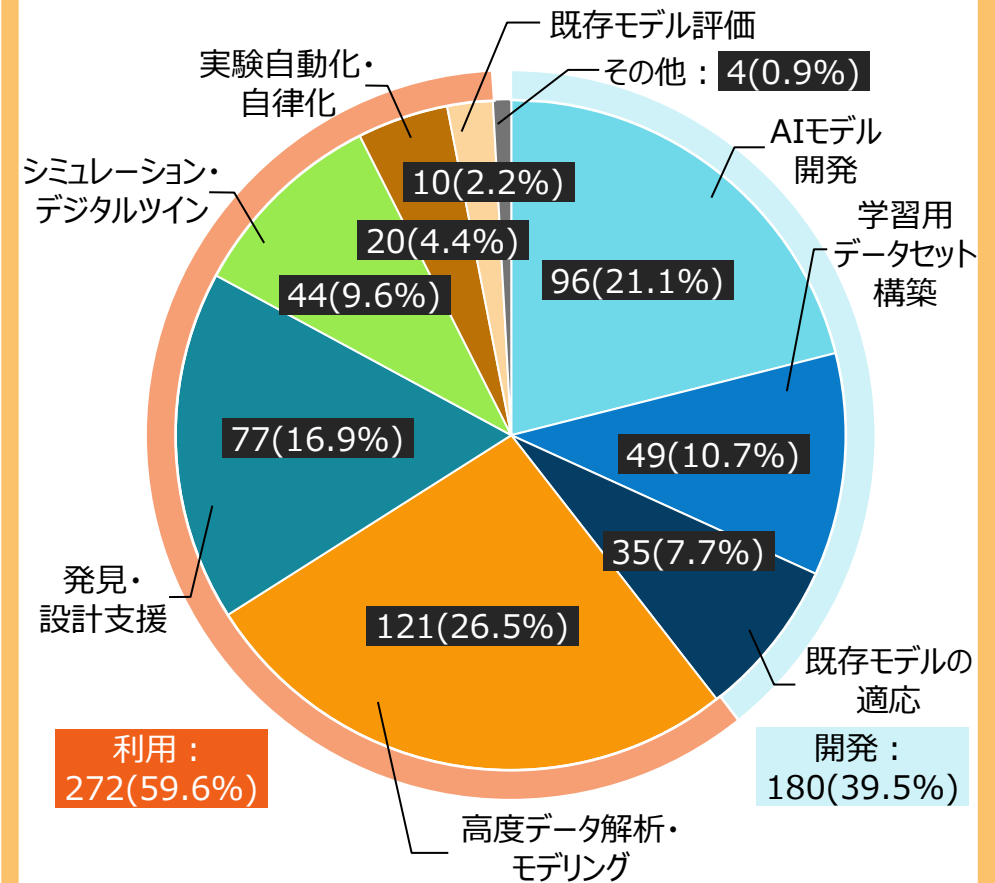


# SPReAD 第1回公募 採択結果【ユースケース別】

**応募課題数：15,868件**



**採択課題数：456件**



# SPReAD 第1回公募申請者の課題・悩み (AIインタビューより)

第1回公募において実施したAIインタビューの内容を元に、申請者（約1.5万人）のAI活用の悩み・課題を抽出。

※AIインタビューを実施した際に言及した人数が多い順に上から並べたもの。

1. **出力の信頼性・精度・ブラックボックス**  
 ー答えが正しいか確認できない・精度への不安、ハルシネーション・誤情報の頻発、なぜその結果になったかわからない（ブラックボックス）
2. **スキル・知識・学習不足**  
 ー使った経験が無く1人で進められるか不安、専門外で基礎から学ぶ負担が大きい、実装が自分でできない
3. **使い方・始め方・適用先が不明**  
 ーツール等をどう選べばよいかわからない、自分のデータにどう当てはめるかわからない、どこまでAIに任せてよいか・限界がわからない
4. **人材・連携・体制・仲間**  
 ー学生・チームへの指導・体制づくりが難しい、AI・情報系の専門家と連携・共同研究したい、組織内に詳しい人材がいない
5. **計算資源・ハードウェア**  
 ー機関内の機密情報ルールの制約から計算資源利用が難しい、GPUが足りない、計算環境が無くて始められない、スパコンへのアクセスが難しい
6. **セキュリティ・プライバシー・倫理・法**  
 ー研究データの漏洩リスク、研究倫理上どこまで使ってよいかわからない、個人情報外部AIに入力してよいか、著作権・知財の扱いが不明
7. **資金・コスト**  
 ーAPI・有料サービスの料金が安い、予算がなくてAI研究を始められない
8. **データの質・量・整備**  
 ーアノテーション・ラベル付け作業の負担が大きい、研究利用可能なオープンデータの探し方・活用方法が不明、新分野でデータセットが存在しない、学習データの収集・確保が困難
9. **進化が速くキャッチアップ困難**  
 ー研究・実装の方向性が陳腐化するリスク、勉強時間の確保が追い付かない、新ツール・新モデルの情報収集が追い付かない
10. **モデル・ツール選定の難しさ**  
 ーファインチューニング・カスタマイズ方法がわからない
11. **時間不足・処理速度**  
 ー多忙でAI活用に時間を割けない
12. **プロンプト・指示の出し方**  
 ー意図した出力をうまく引き出せない、聞き方で回答が大きくなる、研究上の問いをAIへの指示に変換できない
13. **AI依存・人間の役割低下**  
 ーAIへの依存・丸投げへの懸念、創造性・オリジナリティの喪失、学生・次世代研究者への悪影響、思考力・問題解決力の低下への懸念

# SPReADコミュニティの方向性（案）

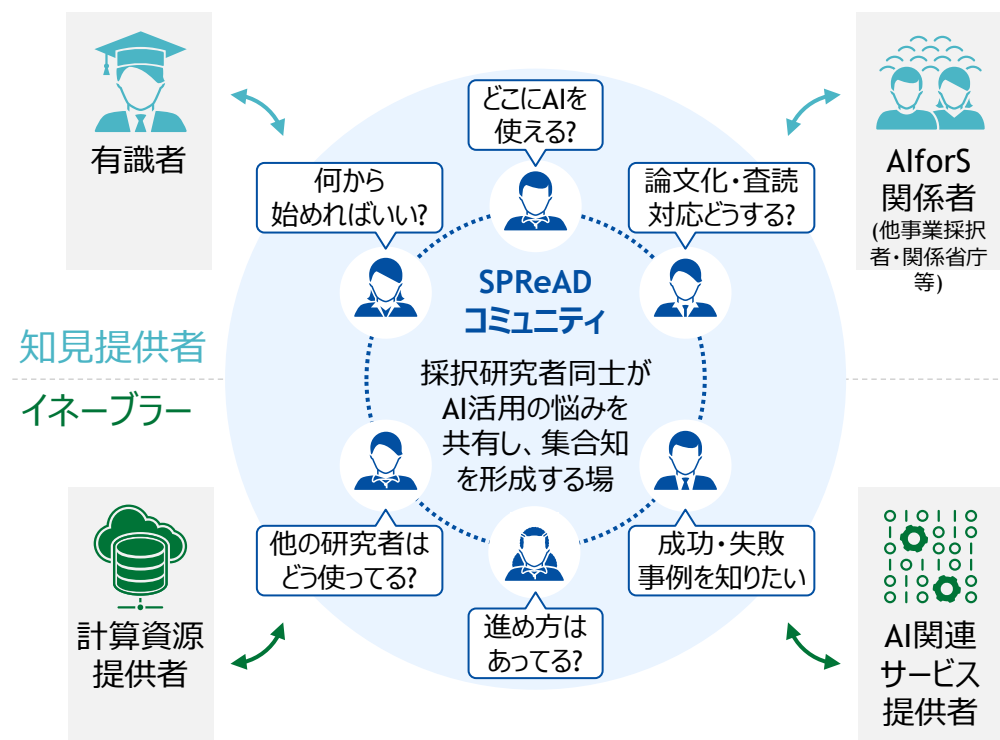
## 研究者主導であらゆる分野のAI for Scienceの視野を広げる研究コミュニティ

- 研究者同士がAI活用の課題及びその解消のためのコツを共有して集合知を形成する場
- 将来的には、コミュニティの拡大やナレッジ集積・自走化を目指す

### 当面の取り組み

#### 研究者中心のコミュニティの基盤を形成

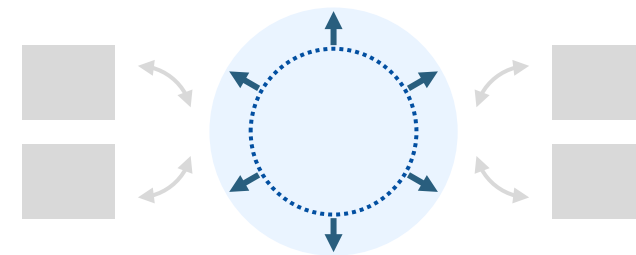
- ↔ 知見提供の繋がり (必要時)
- ↔ 支援リソースの繋がり (必要時)



### 今後の発展イメージ

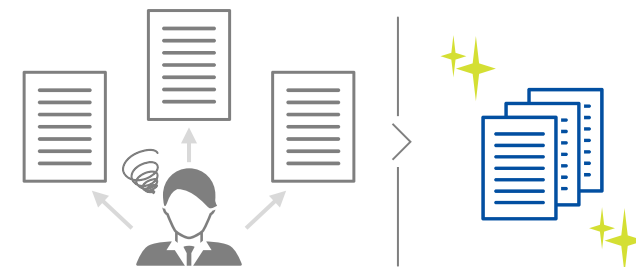
#### コミュニティの拡大

- 参加者拡大
- 研究活動の活性化
- 研究会・学会の設立



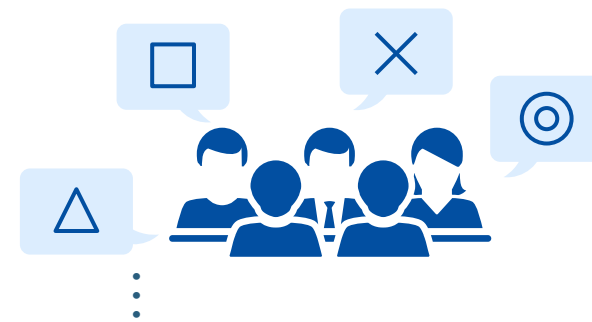
#### ナレッジの集積・可視化

- 事例・Tipsを整理・ 見つけやすく



#### 研究者の声の反映

- 研究者によるAlforSに 関する提言



#### 直近の スケジュール

- 7月下旬 : 第1回公募採択者向けのキックオフ
- 8月上旬 : AI活用学び合い会（初心者相談会）
- 8月下旬 : 第2回公募採択者向けのキックオフ